

愛知医科大学病院で腎移植を
受けられた患者さんへ
～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	常染色体優性多発嚢胞腎における腎移植後嚢胞縮小率のprediction modelの確立		
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2026年3月31日		
研究実施診療科	腎移植外科		
対象となる方	(西暦) 2010年4月1日 ～ (西暦) 2024年3月31日に、当院腎移植外科において、腎移植術を受けた方		
主たる研究実施機関	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 (研究代表者氏名： 平光 高久)		
共同研究機関	別紙【研究組織】参照		
当院の研究責任者	所属	腎移植外科	氏名 小林孝彰
研究の意義・目的	常染色体優性多発嚢胞腎は腎移植後に自己腎の嚢胞が縮小することが知られており、当院の症例においても術後1年で約40%、嚢胞容積が縮小しました。しかしほとんど嚢胞縮小を起こさない症例も見られます。巨大な嚢胞腎は腹部膨満感による生活の質の低下や移植腎圧排などの影響があり、その縮小率が術前に予測できれば術前、術中の嚢胞腎摘出術が必要かを判断する材料になる可能性があります。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、集められた情報を研究代表者が解析します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、個人を直ちに特定できるような情報とは切り離した状態で使用します。(年齢、体重、性別等の基本情報、術前、術後1年の嚢胞腎容積)		
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。		
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。		
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。		

利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報等は、将来、本研究に関連する別の研究のために利用させていただく可能性があります。その場合には、その計画について別途倫理審査を受け、承認を得た上で使用します。二次利用を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 腎移植外科 長谷川雄基 電話 0561-62-3311 (代表)

《別紙》

【研究組織】

1. 研究代表者

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 移植・内分泌外科 平光高久

2. 共同研究者

所 属	責 任 者
愛知医科大学病院 腎移植外科	小林孝彰

3. 研究実施施設

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

愛知医科大学